

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19520421  
 研究課題名（和文） 英語における動物比喩の総合研究：その歴史・構造・ジャンル  
 研究課題名（英文） Animal Metaphor in English: Its History, Structure, and Genre  
 研究代表者 渡辺 秀樹 (WATANABE HIDEKI)  
 大阪大学・大学院言語文化研究科・教授  
 研究者番号：30191787

研究代表者の専門分野：歴史言語学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：メタファー・直喩・動物名・語義拡張・認知言語学・歴史的变化・構造的

### 1. 研究計画の概要

(1) 英語における動物名の人間比喩の用例を幅広く集めて、人の性質や行為を表す比喩義の一覧を作成して、それを基にメタファーの辞書を作る。

(2) 哺乳類・鳥類・魚類・虫・爬虫類といった動物の種類毎に集めた人間比喩用法を比較考察して、類義・同義の動物名を抽出、類似の比喩義が生じた原因と類似性を説明する。

(3) 比喩義成立の過程を歴史的に説明付けるために、中世英語を視野に入れ、特に成句・熟語が頻出する頭韻詩のメタファーを同時に研究する。

(4) 上記の研究の各段階を論文にまとめ、それを編集して「英語動物名の人間比喩用法」（仮題）という研究書にまとめる。

### 2. 研究の進捗状況

これまで 3 年間の研究期間に、ほぼ全ての動物名の人間比喩義のリスト化を完了し、それらに基づいて、イヌ科、ネコ、鳥類、昆虫の人間比喩用法についての研究論文を発表した。当初計画にあった動物名のうち、魚類・爬虫類・両生類名の分析が残っている。

また 3 年間の研究成果として、日本英語学会全国大会のシンポジウム「これからのコロケーション研究」において「英語史とコロケーション」のテーマを論ずる講師に招聘された。当シンポジウムでは連語の観点から動物名比喩の歴史性と構造的性を示したが、これは本研究者が中世英語頭韻詩におけるメタファーの研究と並行して現代英語の動物名のメタファーを考察する研究方法をとっているために、そして司会の堀正広氏が本研究者の「英語鳥名のメタファー研究」に興味を持ったために招聘されたものである。つまり、メタファー研究には比喩義成立の過程と歴史性を論考する必要があることが認識されたことを意味し、これは本研究の学界に与え

た影響といえる。

英語の哺乳類の名詞は多く、家畜動物名だけをとっても「馬」「牛」「羊」「豚」とそれぞれが総称名と雌雄や成獣と仔、用途別の名称など上位語と下位語の明確な構造的性を持って比喩義とともに使用されている。加えて、人に身近な動物の名前は、転用動詞や転用形容詞の用法も発達させており、複合語の第 2 要素として生産力を持っているため、ニュース英語などジャンル別の使用例などの検討を含めると、一つの種名を扱うだけでそれぞれ 1 年が必要であることが判明した。

### 3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。比喩義で用いられる哺乳類名は予想を超えて甚だしく多いので、上で述べたように、家畜名全てを詳細に検討することはできていないが、イヌとネコについては、当初の計画を超えて詳細な分析と総合が完了しており、いくつもの新発見があった。これらは論文と学会シンポジウムで発表した。

最終目標は英語動物名の比喩義を総合的に論じ解説する著書であり、下のような構成を念頭に研究を開始した。現在までに単独の論文で発表して本文が完成しているものには下線を付けて示す（カッコ内は執筆者）。第 10 章、13 章は資料をそろえてあるので、全体の 7 割が完成していると言える。

#### 『英語動物名のメタファー』

第 1 章 序論

第 2 章 昆虫名 (大森文子 2005)

第 3 章 鳥名 (渡辺秀樹 2005)

第 4 章 犬科の比喩構造 (渡辺秀樹 2006)

第 5 章 猫科 (渡辺秀樹 2009)

第 6 章 特定名のイディオムの歴史 “as dead as a/the dodo” (渡辺秀樹 2005)

第7章 動物比喻と概念メタファー：獣性と人間性（大森文子 2006）

第8章 爬虫類名と特定名頻出ジャンル

第9章 動物名の諺とアイロニー

ケーススタディ

第10章 動物名に基づく英文読解：dog

第11章 英詩を動物名から読む：ミルトン『失樂園』（大森文子 2008）

第12章 英語動物寓意詩4編の比喻の構造（渡辺秀樹・大森文子 2008）

総論：比喻義と構造的性

第13章 動物総称名の類間対応と認識構造

第14章 動物名比喻の類義と反義の構造

#### 4. 今後の研究の推進方策

上記の理由により、当初の計画の大筋に従って、動物名（哺乳類）・鳥名・魚名・爬虫類名・昆虫名のような典型的なグループの比喻義の構造的性を明示・比較し、上位者と下位者、収奪者と被害者、ポジティブな比喻義トネガティブな比喻義のような対立を基軸とする構造的性の平行現象を提示することを目指す。家畜名は多すぎるため1年では詳細に分析できないので、イヌ科とネコの比喻義と比較考察することにどめ、次の研究の機会に残す。

今後は魚類・爬虫類名の考察、類間の比喻義同士の構造的性の比較に取り掛かる。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計11件）

(1) 渡辺秀樹 「日本の*Beowulf*研究史80年を振り返る」『*ベーオウルフとその周辺*』（2009年9月春風社）pp. 377-388. 査読無

(2) 渡辺秀樹 「芸術作品の擁護—「ベーオウルフ」「グレンデルのヘオロット襲撃」の文章構造と詩人の技法」『*今井光規教授古希記念論文集*』（2009年7月松柏社）pp. 127-146. 査読無

(3) 渡辺秀樹 「名詞catを含む成句・諺・イデオムと人間比喻義の構造 共同研究 英語動物名のメタファー (11)」『*言語の歴史的变化と認知の枠組み 言語文化共同研究プロジェクト2008*』（2009年4月 大阪大学言語文化研究科）pp. 5-21. 査読無

(4) Hideki Watanabe, “The Ambiguous or Polysemous Compounds in *Beowulf* Revisited: □scholt and garholt,” *Historical Englishes in Varieties of Texts and Contexts: The Global Programme, International Conference 2007*. (November, 2008, Peter Lang) pp. 143-155. 査読有

(5) Hideki Watanabe, Review Article. “Fabienne Michelet, *Creation, Migration, and Conquest:*

*Imaginary Geography and Sense of Space in Old English Literature* (Oxford, 2006)” *Studies in English Literature* (2008年7月 日本英文学会) pp. 213-218. 査読有

(6) 渡辺秀樹 「メディア英語の犬品種名メタファーの構造 PoodleとRottweilerを中心に 共同研究 英語動物名のメタファー (7)」『*文化とレトリック 言語文化共同研究プロジェクト2006*』（2007年4月 大阪大学言語文化研究科）pp. 31-52. 査読無

〔学会発表〕（計3件）

(1) 堀正広・渡辺秀樹・赤野一郎・田畑智司・古屋多恵子 「英語史とコロケーション研究（英語動物名比喻とその構造的性）」日本英語学会 全国大会シンポジウム「これからのコロケーション研究」、2009年11月15日、大阪大学

(2) Hideki Watanabe, “Grendel’s Approach to Heorot Revisited: Repetition, Equivocation, and Anticipation in *Beowulf* 702b-720.” *Society for Historical English Linguistics and Literature* 第3回大会、2009年8月29日、広島大学

(3) 吉野利弘・武内信一・渡辺秀樹・菊池清明 「日本における*Beowulf* 研究史80年を振り返る」日本英文学会 第79回全国大会シンポジウム「中世英語・英文学を問う」、2008年5月19日、慶應義塾大学